室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

JALISAの活動に役立つ書籍紹介『ガザの空の下ーそれでも明日は来るし人は生きる』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本国際法律家協会 公開日: 2017-12-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清末, 愛砂 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009504

JALISAの活動に役に立つ書籍紹介

藤原亮司『ガザの空の下 −それでも明日は来るし人は生きる』(dZERO、2016年)

室蘭工業大学大学院工学研究科准教授　清末 愛砂



1947年の国連パレスチナ分割決議の採択、1948年のイスラエルの建国、1967年の第三次中東戦争等の数々の歴史的出来事により、故郷からの追放（難民化）と占領下での苛酷な生活を強いられてきたパレスチナ人。日本を含む国際社会は、これらの状況を生み出した要因とその継続を支える構造に大きなかかわりを有している。私たちの<かかわり>を考え、その要因に真摯に立ち向かうことがなければ、これらの地に平和が訪れることはない。今号ではそのことを再確認させてくれる書籍として、長年にわたりパレスチナ、特にガザを取材してきたジャーナリストの藤原亮司さんの力作『ガザの空の下−それでも明日は来るし人は生きる』を紹介したい。

ガザへの大規模軍事作戦を<定期的に>敢行するイスラエル。フェンスと壁に囲まれたガザに空爆、海からの砲撃、地上戦による生々しい無差別攻撃が行われると、国際社会はイスラエルによる露骨な国際法違反に対する批判を一定程度行う。しかし、イスラエルによるこのような攻撃を可能としてきた<国際秩序>そのものを問うことはしない。

1990年代前半に国際社会の後押しを受けながら、イスラエルとパレスチナとの間で一連のオスロ合意（それは占領を巧妙に継続させるものに他ならなかった）が締結された。これにより、1967年の第三次中東戦争の結果、イスラエルの占領下に置かれた東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区とガザ地区の<一部>（東エルサレムはイスラエルに強制的に併合されたまま現在にいたる）にパレスチナ自治区が誕生した。しかし、同時期にガザに対する封鎖政策が始まり、それは時間の経過とともに徐々に強固なものへと変わり、2008年には完全封鎖にまでいたった。

本書は読者に対し、主には封鎖と軍事攻撃の下に生きるガザの人々(その多くは難民である)の生の営みを描きながら、将来の希望や人生計画をすべからく奪う残酷な封鎖、自らの人生が完全に他の者の手の中にあるという現実を生きることの意味を問いかける。その上で、直接的な占領者であるイスラエルという一国家だけが、この現実を生み続けてきたわけではないことを的確に指摘する。そこが本書の特徴である。本書は、軍事攻撃や封鎖がガザの人々にもたらす窮状を一時的に<緩和>するために提供される国際援助が、実のところ、占領国が被占領者に対して本来果たさなければならない義務（例えばジュネーヴ第4条約55条の下での食糧や医療品

の確保等）を肩代わりし、結果的にイスラエルを財政的に支える構造が出来上がっていることを問題視する。

著者の言葉を借りるならば、このような援助がなされることで「浮いたカネをイスラエルは軍備増強にも入植地建設にも、あるいは産業振興にも回すことができる」(116頁）のであり、それはすなわち、「イスラエルの占領に対する後方支援を諸外国が行っているようなものでしかない。『人道』による援助がパレスチナ占領を継続させ、ときには人を殺していく」(同頁）ことになる。別の表現を借りると、「イスラエルによる占領という根本的事象を置き去りにしたままつぎ込まれる援助は、占領の固定化以外に何の役にも立たない」(同頁）のである。国際社会には、一時しのぎの援助を続けるのではなく、まずは占領者であるイスラエルに対し、国際法上の義務を果たすようにプレッシャーをかけつつ、封鎖の終結を毅然とした態度で訴えることが求められている。その動きは、占領の完全終結のために、イスラエルやその同盟国の米国を追い込むものへとつながるような継続性があるものでなければならない。

パレスチナ人はこれまでの<和平>交渉のなかで、譲歩する必要はないにもかかわらず、譲歩できるものはすべてしてきた。もはや譲れるものは何も残されていない。パレスチナ人をここまで追い込んできた自らの責任を問い、行動に移さない限り、国際社会はパレスチナ人を愚弄し続ける。そのことを明確に教えてくれるのが、本書である。

JALISA ホームページ「書籍紹介欄」のご案内

日本国際法律家協会（JALISA）のホームページをご覧いただけると、最初のページの右端上部に「書籍紹介」のタブが見えると思います。そこをクリックしていただくと、JALISAが取り組んでいる活動に関連する書籍やJALISAの会員が執筆した書籍を紹介しているページに飛びます。今のところ（2016年8月24日現在)4冊分（うち3冊は「平和への権利」について）しか紹介できていませんが、今後は会員の皆さんから情報を提供していただき、会員の活動報告アピールを兼ねて積極的に掲載していきたいと考えています。JALISAとして取り組んでいる活動に直接的なかかわりがないように思える書籍であっても、間接的にかかわりがあると思えるもの（あくまで個々の会員による判断）であれば紹介いたします。会員の皆さまの編著書・単著・共著を事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。なお、JALISA事務局は会員の皆さまが書かれた書籍の販売については、特別な場合（JALISAの活動の一環として出版された書籍等の販売）を除き、原則取り扱いはしませんので、その点、ご了承ください。(清末愛砂)